

各時期の発掘調査の成果(図3)

(1) 古墳時代前期(4世紀)

たてあなじゆうきょ ぶつごう
堅穴住居や土坑・河川といった遺構が見つかり、たくさんの遺物が出土しました。そのほとんどが
はじき すえき
土師器・須恵器といった土器類です。そのほかに、としい くだたま かっせきせいゆうこうえんばん
砥石・管玉・滑石製有孔円盤などの石製品もあります。方形の堅穴住居は4.5m×3.8mの広さですが、深さは約0.1mしか残っていませんでした。北西辺に
しょうどかい
カマドの残骸と考えられる焼土塊があったほか、壁に沿って排水溝が掘られていました。河川は幅約1.5
m・深さ約0.8mを測り、大量の土師器が出土しました。

(2) 飛鳥時代後期(7世紀末～8世紀初頭)

遺構は見つかりませんが、瓦を中心とする遺物が出土しました。付近に存在したとされる「蜂屋寺」に関連するものと考えられますが、その実態についてはよくわかりません。出土した瓦の中には軒丸瓦が数点あり、その文様は「法隆寺式」と呼ばれるものです。蜂屋遺跡の発掘調査では、これまでも同様の瓦が出土していますし、南南西約600mに位置するしもまがりひがし
下鉤東遺跡では、ほぼ同時期の寺跡が見つかりました。

(3) 平安時代末～鎌倉時代初頭(12世紀後半)

ほったてばしらたてもの
溝・掘立柱建物の柱穴・土坑・井戸など多くの遺構が見つかり、土師器や黒色土器・陶器(常滑焼中心)・輸入白磁・砥石など多くの遺物が出土しています。これら多くの遺構・遺物が見つかったことから、当時は集落があったと考えられます。柱穴の中には、砥石を据えたものもいくつか見られます。屋敷地を区画すると考えられる溝①(幅約1.5m・深さ約0.7m)や横板組み井戸(直径3.8m)・廃棄土坑などからは、土師器皿や黒色土器碗を中心とする土器類が大量に出土しました。

(4) 室町時代後期～安土桃山時代(16世紀後半)

溝・掘立柱建物柱穴・土坑・河川など多くの遺構が見つかり、土師器・陶器(信楽焼中心)・輸入白磁といった土器類を中心に、瓦・石臼・石仏・砥石・燈籠・五輪塔・曲物などの遺物が出土しています。これら多くの遺構・遺物が見つかったことから、この時代にも集落があったと考えられます。また、瓦が多数出土していますが、これは燈籠とともに宇和宮神社に関するものである可能性が考えられます。石組み井戸①は直径2.3m・深さ2.7mを測り、下部1.7mには角礫を用いた直径1.1mの石組と直径0.5mの曲物を据えていました。また、平面形が隅丸方形を呈する土坑も多数見つかりました。河川は幅約3.0m・深さ約0.8mを測り、遺物を多く含んでいました。

(5) 江戸時代中期(18世紀)

溝や井戸・土坑などの遺構が見つかり、陶器や磁器・土人形・瓦・すずり きせる
硯・煙管などの遺物が出土しました。建物など住居と考えられる遺構はありませんので、この時期になると、それまでにあった集落はなくなり、水田がつくられて現代にまで続く風景になったと考えられます。石組み井戸③は直径1.8m・深さ2.2mを測るもので、川原石で井戸枠が組まれていました。溝は水田の用水路と考えられます。

まとめ

以上のように、今回の発掘調査により、5つの時代にわたってここ蜂屋地区で人々が活動した痕跡を見いだすことができました。このように連綿と人々が生活を営んだ背景には、蜂屋地区に居住に適した安定した地盤と、水稲耕作に適した水利などの土地条件があったことが考えられます。

今後も発掘調査を継続して行ってまいります。これまで同様にご協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

蜂屋遺跡発掘調査 現地説明会資料

平成29年(2017)7月29日(土) / 公益財団法人滋賀県文化財保護協会

私たちは文化財をとおして
ゆたかな滋賀づくりに貢献します。



調査の概要

当協会では、滋賀県南部土木事務所河川砂防課からの依頼により、中ノ井川広域河川改修工事に伴う蜂屋遺跡の発掘調査を、平成29年1月から実施しています。

蜂屋遺跡は、栗東市北部に位置し、野洲川が形成した扇状地・氾濫平野に立地しています。縄文時代から中世にかけての集落跡として周知されていて、これまでに栗東市教育委員会・(公財)栗東市体育協会が実施した発掘調査により、数多くの調査成果が上がっています。近年では、平成23年度の発掘調査で飛鳥時代(7世紀前半)の井戸が見つかりました。中には横板組の井戸枠が残っていました。また、平成27年度の発掘調査では、平安時代後期(12世紀後半)の墓が見つかりました。1つの墓壇に3つの木棺を納めていて、当時としては貴重な中国製磁器が多数副葬されていました。これらの調査成果は、長期にわたってここ蜂屋で人々の生活が営まれてきたことの証拠とすることができます。

今回の調査地は、蜂屋遺跡の範囲のほぼ中央に位置する地点であり、北側に近接して宇和宮神社が鎮座しています。古墳の墳丘上に立地する本殿は、室町時代後期の永正2年(1505)に建てられたもので、重要文化財に指定されています。

このたび、当初計画の1,600㎡の発掘調査が終了しましたので、その成果を地元の方々を中心に見ていただく機会を設けることといたしました。今回の発掘調査で見つかった遺構・遺物は、大きく5つの時代にわけることができます。



図1 蜂屋遺跡の位置

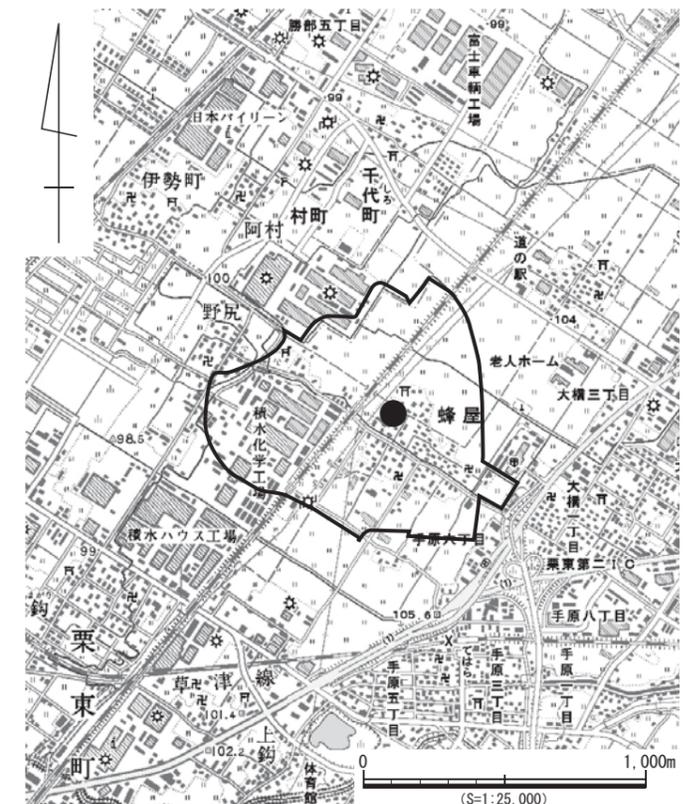


図2 蜂屋遺跡の範囲(●が今回の調査地)

中ノ井川広域河川改修工事に伴う蜂屋遺跡における発掘調査の成果



平成28年度調査区全景(北東から)

古墳時代前期(4世紀)



竪穴住居(北西から)



河川(北西から)

飛鳥時代後期(7世紀末~8世紀初頭)



軒丸瓦出土状況(南西から)

室町時代後期~安土桃山時代(16世紀後半)



石組み井戸①(北東から)

平安時代末~鎌倉時代初頭(12世紀後半)



溝①(北西から)



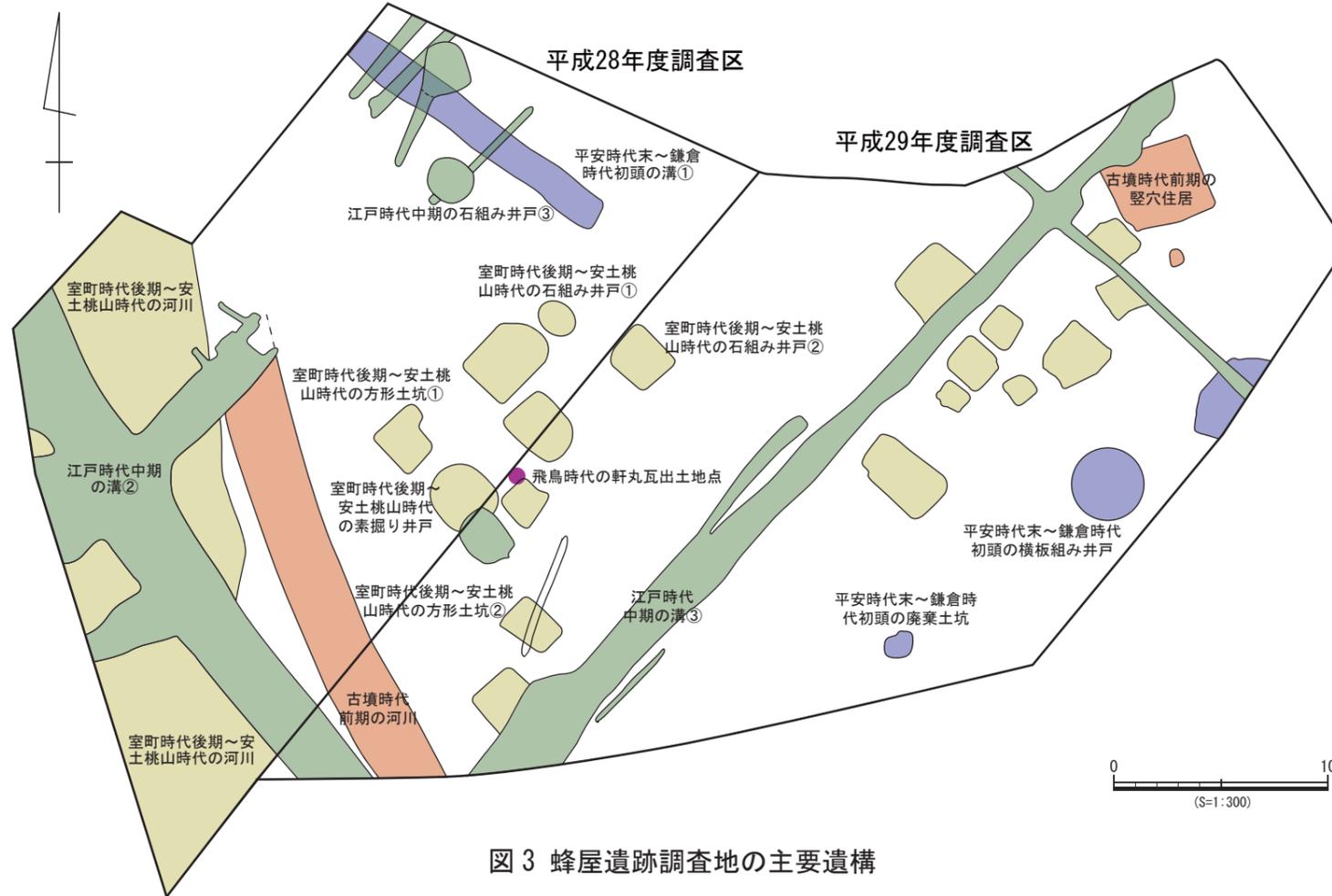
廃棄土坑(北西から)



横板組み井戸(南西から)



掘立柱建物柱穴群(西から)



江戸時代中期(18世紀)



溝②(北西から)



溝③(南西から)



石組み井戸③(北東から)



石組み井戸②(南西から)



素掘り井戸(北西から)



方形土坑①(北東から)



方形土坑②(南東から)